乳母や
乳母や！
ナイフは
やめておくれ
いいじゃないか
ほっといても
死んじまうよ
早く！
早く
馬車を
出して！
待って
待って！
乳母や！
おいてか
ないで
乳母や
待って！
乳母や！

オギャア
オギャア
オギャア
オギャア
オギャア
ふ
どうして？
どうして？
どうして？
どうして？
どうしてここはこんなに暗いの？
どうしてみんなどこに行ったの？
乳母や　どこよ
乳母や　どこよ
メリーベル

メリーベル　メリーベル　メリーベル　泣かないで
オギャア　マァ　アァ
ぼくがいるよ　お兄ちゃまがちゃんといるよ　泣かないで…！
マァ　フギャ　オギャ
……
ギク！
ビクッ
まあ！　泣き声の正体はここだよ！　きとくれ　レダ！
オギャ　オギャ　オギャア

おや 目がさめたかい 捨て子さん
……メリーベルは?
小間使いのレダがヒツジの乳をもらってきて飲ませてるよ
おまえも食事をおし
そんなにおどろいた顔しなさんな
わたしゃ老ハンナ・ポー 今日からここがあんたの家だよ
……あれはなに…
あれはばらだよ
春には咲くよ
あれはなに?
あれはスコッティの村だよ

…お館の老ハンナ・ポーさまが…
森で子どもをひろいなさったのだと
慈悲ぶかいおかたじゃ
霧の夜だって…!?
オレの女房が死んだ晩だ
森でだと!? あのばばあは森でなにをしてたんだ
おちつけよビルおやじ!
おまえの女房はちゃんとベッドで病気でもってくたばったんじゃねえか
うう
うそだ ありゃまっとうな死に顔じゃねえありゃ…
バンパネラにのどっ首しめられたんだ!
すきとおった銀色の髪の少女がいました
そのあまりの美しさに神は
少女の時をとめました
おねむり
おねむり
戸口にゃどんど火を燃やせ
窓にゃ十字架ニンニクつるせ

――とめました
それで少女はあしたもあしたも
おねむり……
いい子
大きくおなり
おなり
クイを用意しろ
祈りをたやすな
殺せ！
あの悪霊を殺せ　殺せ　殺せ
銀色の髪風に吹かせ
永遠の時を生きているのです
ばばあめ…
ばばあめ…
パンパネラってなあに？
この村の伝説だよ…バカバカしい…
おばあちゃまいくつ？
ほほいくつに見えるかえ

ぼくたち なぜ 捨てられて いたの？
そんなことを 考える年に なったかね
なぜだろうかねえ どこのだれの子 なんだろうね
いい服を きてたよ エドガーって名で 四つだって 妹のメリーベルは 生まれたばかりだって 自分でそういったよ
これ なに？
ばらを つんで 作った スープさ
ウェッ
ズー
ねえ でも 自分がどこの だれかなんて たいせつなこと じゃないよ
あれ カケス？
カケスの お父さんと お母さんだよ
おまえたちはこの館で 育ったんだし わたしはおまえたちが とてもかわいいし
メリーベルの お父ちゃまと お母ちゃま いないの？
…だってほら
お兄ちゃまが いるじゃないか
おばあちゃまも いるだろ
みーんな メリーベルが 好きだよ
だあい 好きだよ
だあい好き
だあい好き
だあい好き

お兄ちゃまー
お兄ちゃまあ
あん
おやおやおいてけぼりかい
水車作ってくれるっていったのに
悪いお兄ちゃまだねえ
よしよし
帰ってきたらメッしようね

かえ…帰ろうよ レミ
おっかね…よ
声出すな
今さら帰れっか
飲み助の牧師だろ
村長だろ
村役人だろ
そいでおとつい台の上難産でいっちまったセブんちの若い嫁さんだろ
墓地にうめずになにする気だ
どこ行くんだろ
カラ
ここいらでよろしゅうございますかな……
食うんじゃねえか？
ぬかせバカ！
このクイのひと打ちに
ヒッ

消え去れ悪霊!!
だれだ!
ちっくしょう村のガキども!!
ハア
ハア
ハア
おっどろいた…!
あ あの女の人死んでるのに
―バンパネラ退治だよ―
あの嫁さんやられてたのかな
バンパネラ?

エドガー
エドガー
なに？
なに　なに
メリーベル
わあん
悪い
お兄ちゃまを
一日中さがし
まわって
たんですよ
ああ
ごめん
メリーベル
ごめんっ
てばさ
シッ
いいから
お忘れ…
森で見た
ことなぞ
悪霊なんて
いやしな
いんだよ
そんなもの
弱虫の
見た夢さ
…森で
クイを打って
たって…？
おやすみ
おやすみ

わ
そっち！バカ
あふ
逃がした
つぎくるぞ
でっけえぞ
よーし
エドガー！こっち手伝えよ
ちょっと待って
ほらできた
川につけてまわしてごらん
うん
かたん
かたん
シッ！
ビルおやじだ…！
墓ほりにいくんだぞきっと
あいつは頭がへんだよ
ビルおやじはへんじゃねえぞ
ビルおやじのかみさんは昔バンパネラに殺されたんだってよ
そんなものいないって
おばあさまがいってたよ
ビルおやじは見たんだ
ひるは墓場でねむってて
夜になると血をすいにこんな顔して出てくるんだ…

きゃっ
メリーベルをおどかすなようそつき!
あっこのやろ
オレがいつうそついたよっ
いてっ
でったらめだい
でたらめじゃないぞ
お兄ちゃまお兄ちゃま
アチこいつ
村のもんぜんぶ言ってるぞ
おやめなさい!
やーい捨て子捨て子
すっころんで首のホネおって死んじまえ!
スコッティの村のやつらはみんなバカでぬけさくだ!
動かないで目にどろがはいりますよ

…ケンカは
ダメよ　あなたの妹が
びっくりして
泣いてるじゃないの
シーラ！
やっと
わだちが
なおったよ
おのり…
すぐ館だ
館…って
きみは――
きみたちは…
!!

そう
やっぱりだ
エドガーと
メリーベルだ！
何年ぶりだ
ろうね！
今いくつ？
今？
ぼくは
十一で
メリーベルは
七つ

おぼえてない
だろうね
そうか…そらっ
きゃっ
ほほ
ムリでございますよ
こちらはね
フランク・ポーツネル
男爵さま
ポーツネル
……？

五年ほどまえに
一度こちらの
お館へおより
いただいたことが
あるんですよ
ふーん
ふむ　いい子だ
美人になるぞ
やん
おひげが
いたい

さて…老ハンナは
お元気かな
あいさつを
してきたいが
エドガーくん…
そのあいだに
あのご婦人の
お相手を
たのむよ

……

そんなに かたくならないで おしゃべりしましょ
きれいな村ね
スコッティは きれいなとこが たくさんあるよ
カケスの巣やね 水車のまわせる小川やね おっこちたら死んじゃいそうながけ
まあ すてき!
あ あした朝から案内してあげる
ほんとう? じゃ 約束
おぼえていらっしゃいますか?
まえに わたしがお願いにあがったこと
あの女に もう手をつけたのかい?
まだ 指一本 ふれちゃいません
わたしは彼女が二十になるまで待ったのですよ 五年間…!
まだ愛しているのかい
そして これからも ずっと!
わたしたちの一族として!

チチチ
チチチ
チチ
きれいな人
きれいな人
—ぼくは
お母さまを
知らないけれど
——きっと
こんなかんじじゃ
ないのかしら
あの…花のむれは
なに　エドガー
ああ
あれ…
あれは…
スコッティ村の
ぬけさくたちが
いもしない
バンパネラなぞを
こわがってうえた
ニンニクの花ですよ！
カチーン
カチーン
カチン
カチーン

シーラ
老ハンナが今夜あってくださるそうだよ
おお！
よかった――わたし――…わたし
…老ハンナおばあさまに今夜あうってなに…？
結婚の
結婚の許可をいただくの…あ…でも
ああ…
老ハンナ・ポーのお気にめすかしら…！
ああそう…
…そうなの
大丈夫だよきっと！
……
結婚したらかわいい子どもがほしいわ
男の子女の子？
どっちもよ！
とても愛してるの？

シーラかい？彼女が十五の時からずっと好きだった
こんなことはそのいいことじゃないが…
彼女は十六の時金銭的な理由からさる伯爵家へとついで——でも
わたしたちは…愛しあいまあ　ついにかけおちしてきたんだよ…彼女はすべてを捨ててね
初めて彼女に会ったのはかの伯爵の婚約披露のパーティーの席
まだ十五であったシーラはもう貴婦人らしく髪をゆい房をゆらし思いきり細く腰をしめあげしなをつくり——そのくせ少女の声で話をした
それでわたしは一度で感じてしまった
彼女こそ永遠の婦人であると

わたしはすぐ
老ハンナの館へ
花嫁の訪れをつげた
そしてわたしは
五年のあいだ待った
彼女が成長するまで
ただ彼女だけを
見つめて
きた
彼女も…
もともと
たがいに望んで
とついだという
わけではなく
なにを失っても
この愛をなくす
よりはと…
わたしに
ついてきた…
五年も
待ったの？
もっと早く
つれ出せな
かったの？
…時間
が…
いったの
でね…

父ちゃん

おお
もらって
きたか
よこせ

ほどほどに
しとけって
ばあさんが
言ってたよ

もう
墓ほり
やめなよ

オ…オ
オレの気持ちが
わかってたまるか!

女房かえせぇ

ペッペ!

飲んでんのか
ビルおやじ

いつもさ

なあペッペ
オレたちな

ね ね あの
おばちゃま好きよ
お母ちゃまに
してよ
おちびさん
おやすみの
時間だよ
おばあちゃま
なんでも
できるんでしょ
そうしてよ
そうしてよ
メリーベル
おいで
お母ちゃまが
いれば
捨て子じゃ
なくなるもの
―男爵の養子に
なって町へ行くかい
――そうしても
いいんだよ
どこかで
ひょっとして
おまえたちの
両親に
会えるかも
しれない
ぼくたちが
いなくなると
さびしいでしょ
おばあちゃま
霧の夜
―
行って
しまった
馬車
―
どこか遠くの
おぼろな記憶…
ゆりかご…さんざし…
白い窓…
ま ねむって
しまって…さ
おかし
くださいな
ほんとに
あれは…
あれはいつかの
日びの
ことかしら…
あれ?

あずまやに灯がついてるよ…
一族を呼んであそこで婚約式をやるのがポー家のしきたりなんですと
老ハンナさまが家訓でも話してらっしゃるんでしょ
さ! さっさとおやすみなさいましよ
婚約式…か
ポー家?
ぼくは呼ばれないのかしらー子どもだから?
ム! 不公平だ ぼくはおばあさまのお館の子なのに!
ザッ
…あ!
たくさんの人たち…!
…どこから
…これがみんなポー家のひとたち?

わたし…暗くて足もとが見えないわ
こわがることはないこれは一族の儀式さ
さあ
老ハンナが
呼んでいらっしゃる…
あれは……老ハンナおばあさま…?
いつものおばあさまとちがう
なにかがちがうここ
静かすぎる暗すぎる
それでなくてもなにかちがう空気の色がちがう
フランクを愛してるね
老ハンナ心から…!
永遠に?
永遠に!

ともに歩み
ともに老い
ともにめされ
ともに土と
なるまで…！
ここに
この婦人を
永遠の命を
わけし者とし
わたしの濃い
直系の血を
…生気を
送り
われわれ…
ポーの
一族に
……
…きゃ…

だれだ!
ガシャーン
わあっ
子ども!
子どもだ!
つかまえろ!
儀式を
見られた
逃がすな
殺せ!
お待ち!

さわぐんじゃない！あの子はすぐ帰ってくるよ
手をお出しでないよ あの子はこのわたしの館の子だからね！
老ハンナ！
あんたのやりかたは最初から気にくわなかった あの子が逃げて村にかけこんだら…
フランク…
…メリーベルをつれといで
ん…？
のっぽのおじちゃま…
さあ…おいでわたしと散歩しようね
エドガーが森へかくれたんだ 見つけたら勝ちだよ…

つかまえろ
逃がすな
殺せ
殺せ
わあぁ
ぎゃあ
ああ
あの人
…あの人…！
あ
ジョージィ！
ロッド！
レミ！
ペッペ！
な
なあんだ
！
館のエドガーじゃねえか
おったまげた
なにしてんだ
おまえも墓地に行くのか？
ぼ
墓地!?
こいつはこねえよ
行くよ！
つれてって
どこでもいいよ！
バンパネラ見に行くんだぞ！
じゃ
おまえいるって信じるか？
バンパネラ!?
んだ

首から血をすう…
そうだ血をすわれて死ぬと—
死んだ人間は生まれかわってバンパネラになるんだ…
そしてまた血をもとめて—
じゃバンパネラだらけになっちまう!
だからやっつけるんだ!
—どうやって…!
心臓にクイを打ちこむんだ…!ねむってるところを見つけて
クイ…
ちりになって散ってしまう—

だれかきたっ
かくれろ
ドキッ!

もっと大きい声でお呼び
おにーいーちゃーまー

メリーベルをお空にほうりあげるよ

そうら!
きゃっ

出ておいで エドガー！
でないと
メリーベルを お空へ ほうりあげるよ…！
シッ…シッ
行こうぜ 早く！
…ぼくは …行けない
お兄ちゃま
お兄ちゃま 見つけた！
…その子を… …おろして！
では… おいで

まったく……

こんなふうに知らせるつもりじゃなかったけどね。

その人を……
殺したね……
…首から血をすって……

血をすったのじゃないわたしのポーの生気を送りこんだのさ
これはフランクのえらんだ婦人だからね…

正式な儀式をひらいて一族の…
〃いちばん濃い血〃をわけあたえ…
死んでるように見えるが　やがて目ざめて――
目ざめてわたしと永遠の時を生きる

わたしたちはこのようにして一族をふやしていく――
彼女が望んでいた人間的な幸福…子どもを育てること…などはできないが
わたしたちは愛しあってるんだ―うまくいくだろう

なにをくどくどさっきから！さっさとその子のしまつをつけたらどうです！
秘密を知られたんですよ！

殺す気はないよ…

この子は一族にくわえる
老ハンナ
小さすぎます!一族にくわえるにはせめて成長期をすぎないと……!
もちろん今じゃない
十年たったらね
——十年はすぐたつさ
ぼくはそんなものにはならない!
わたしも不賛成だ この子はいつでも村の教会へ助けをもとめに走るだろう
その時はメリーベルをまたお空へほうりあげる
……
ひきょうだ!メリーベルはなにも知らないいんだ!
メリーベルはなにも知らないいんだ!
兄さんが死んだら妹は悲しんで泣くだろうよ
おまえはなにも言わないね
……言わない!
おとなになったらわれわれの一族にくわわるね

メリーベルには
手を出さないね…!
約束だよ
…もし…
やぶったら…!
おまえたち…
……
一人
残らず…
クイを打って
やる…ぼくが
死んだって!
ギ
——おいで
エドガー

その婦人を見ておくれ
十分に血を送りこんだはずだから
変化が早いよ
朝までには目ざめるだろう
すべらないよう気をおつけ
わたしの手につかまりなさい
ふるえてるね
わたしの手は冷たくて息をしてないだろう…？
わたしの一族はみなそうさ
どこまでおりるんです老ハンナ
すぐさ
…あずまやの底に…これは墓地ですか？

その箱の
ふたをあけて
おくれ
フランク

ギギギ
おまえを
おしこめや
しないよ
ごらん
…!!

大老ポー…
こんなとこ
ろに…!!

これはわたしの
つれさ…
ちっとばかし
動くことに
くたびれて
ねむってるのさ…
ねむって
る…?

…かれこれ…
三百年以上…だね
一族の中じゃ
いちばん時を生きてる
…濃い血を持ってる

おばあさま
たち
も……?

言ったろう
不死身だって
年もとらない
病気も
大ケガも
しない
わたしたちが
生きてくためには
すこしばかりの——

人間の〝血〟がいるだけだよ
それでビルおやじのおかみさんも昔――！
あれは腹をすかせた無分別なポーだよ
…あさましいこと…！
バンパネラ！
！
そんな名よしとくれ
たしかにわたしらは神様の作ったものじゃないのだろうよ
どんな生きものも死ぬと…死体が残るのに
わたしたちはこの世界の人間じゃないのかもしれないね
天国のとなりか地獄のむかい別世界からきたのかもしれない
わたしたちは死ぬとチリになって風にとんじまう…ということは
老ハンナ 大老ポーはいつ目ざめます
十年たったらちょいとおこそう…
かわいいエドガーの儀式にね… いちばん濃い血を…ね

おねぼうさん
お兄ちゃま
おきなさい
…！
つまんないの…
おばちゃまたち
帰っちゃっ
たの
もう
帰っちゃったの
つまんない！
ああ…
なにもかも
夢だったのでは
ないか
…血をすった
あと…!!
…目がさめたね
愛するきみ
おいで…わかるね
一族の血が
きみのからだに
流れていることが

目ざめたばかりで
くちびるが
かわいてるね
この子から
…ひとくちだけ
血をおとり…
その未来の
約束のために
首に――
――約束――
――おお！

すきとおった銀の髪の少女がいました
あまりの美しさに神は少女の時をとめ
どうしたのエドガー
少女の時を…
あ なんでもないよ… メリーベル
ぼくは約束を果たさねばなるまい
ぼくはここから逃げられない
でもこの子は
この子は!
メリーベルには手を出さないって言ったね
そうさ おまえが約束さえ守ればね
では メリーベルをどこかよそへやって!
この館からはなれてどこか…遠くへ…!!
バンパネラの伝説のない都市へでも!!
遠くへ!

お兄ちゃまも
おばあちゃまも
すぐあとから
くるの?
そうだよ
すぐ
あとから
メリーベル
さあ　おのり
!
新しい
お父ちゃまと
お母ちゃまって
どんな人?
とってもいい
〝人〟たちだよ
そしてメリーベルの
ことを好きでね
だあい好き
でね
ーだあい
好きー
お兄ちゃま!
お兄ちゃま!
早く
きてね!
メリーベル
待ってる
から!
待ってる
から!
だあい好き
だあい好き
だあいす…
ーさよう
ならー
もう永遠に
あうこともない
妹ー

時が移る
あっ…
儀式の日が近づく
一年 また一年と
ぼくの時のとまる日が近づく
手だては？
ビルおやじはあいかわらず墓ほりをやってる
手だては？
彼は信じて疑がわない
かみさんを殺したのがバンパネラだと
スコッティの村の住人が気がつけばいいのだ

館に住んでるのはバンパネラだと！
——時がすぎるまえに——
クイをみがいて
おしよせてくればいいのだ
——ぼくがおとなになるまえに！
祭壇のいけにえとなるまえに！
あいよ でもオレたちは働かねえと食えんけど
おまえは遊んでても食えるけんやっぱ坊っちゃんだ
よう館の坊っちゃん
よせよそのいいかた
赤いほっぺのあの子がすきさ
赤いまき毛のあの子がすきさ
好き？
ヘヘッ あいつこのごろ屋根ふきの娘を追っかけまわしてんだ！
…若い娘ならあぶないな…
…いけにえにえらばれるのはその子かな…
なんだ！
フフ！ なあに うその話さ 十年に一度いけにえの月があって
十年まえはペッペのかみさんを食った！ うまかったぜ！
エドガー！
ビルのバカおやじが墓なんぞさがしているまにさ！
ワア

おやめなさい！
ポーツネル男爵
あいかわらずだな
おのりなさい
館を訪ねるところなの
……
ロンドンをまわって ちょっと
アート男爵家をのぞいてきてみたよ
メリーベルがきれいになってた
…あの子はもう十だ 四つちがいだから
いつもぼくのあとについてきた
小さなメリーベル
小さなメリーベル
もう十…

きみは約束を
守ってる
らしいね
ギク
いい子だ
悪霊は
……土に返して
やるべきだ
すべて
神の
みこころの
ままに!
おや…
いつお帰り
エドガーさま
老ハンナさまと
あわれませんでした?
いいや
急にこの霧で
ございましょう
道に迷った
のではと
たった今
おさがしに
老ハンナも昔は
人間だったのだろう
今もそうなら
よかったのに
それほど
長い時を
人の血で生き
ながらえて
そしてなにを
見たのだろう
…いませんねえ…

…だれが いねえ
おどろいた ビルおやじ 館のエドガーを 見なかった かえ
…屋根屋の 娘かい
ぐらっ
ずるっ
きゃあああ

消えた！
消えたぞ！
オレは女房の
かたきを
うった！
消えた！
そうだとも！　オレは
最初から知って
…知って…
ああ　ああそうか
こんなぐあいに
殺したのか
ざまあみろ…
オレは…知って…
…おお
！

息子のペッペだ
あいつがいたとは！
知られた！
おお
おわりだ
あの館は……
ねじろはもう
おわりだ！

わあ
ああ
エドガーのうそっ話を父ちゃんが本気にして
クイを持って走ってくんで追っかけたんだ
殺された！
飲み助の牧師を呼んでこい！
バンパネラに殺された！
ニンニクをつるせ！
十字架を！
戸口のまえに火を！
霧のあいだから見える…
村で火をたいてる
朝になればよせてまいりましょう村人は六百名館の者は十二名
勝ちめはございませぬ
こんなに…急とは…

この子の問題が残ってる！
今くわえるには小さすぎます
村中がこの館の秘密を知ってしまった今この子をとどめておくのも無意味です
──しかし老ハンナは──
この子を一族にと
大老ポー…
それがあれの望みだったのか？
ふん…
なんだその品のないかっこうは…！
大老ポー
大老ポー
大老ポー

わしがねいって何年たった？目ざめるたびに世の中は殺ばつとして人の誇りは失われてゆく
今 一七五四年です…ぐちってる時では…あなたもお逃げにならないと…！
朝までには時間がある
今じゃない！約束では ぼくがおとなになって
あれはいいつれだった
わたしたちはローマの灯を見フィレンツェの水を渡りともに咲けるばらを追った一族のいい血をふやしながら
それがあれの意志なら…
幸運な子だ！大老の血をもらえるとは一滴でもとみなが望んでいるのに
…わたしがつがねばなるまい……

大老ポー
あなたは?
バタン
また
どこかの
地下室で
ねむる

…変化している
変化して…
ぼくの内部で
血が肉が骨が
すべての組織が
変化している…

血がゆるく流れ
からだが冷たく
こごえ
のどもとから
指先から
なにかちがう
結晶が
分裂し
成長して
からだ中に
ゆうるりと
ゆうるりと
ゆうるり
と……
時が
とまる
時が
とまる
…とまる
きらめく
夏の日び
明日も
あさってもが
しあわせな
今日の日の
つづきだと
信じていた
日び……

目がさめて？
まる三日ねむってたわ目ざめないかと思ったのよ
時どき血がなぜかしら和合せずそのまま硬直して死んでしまうものもいるから——

ほらくちびるが
すっかり
かわいている
変化した
直後ですもの
つかれた
でしょう
わたしの
血を
お飲みなさい
まぶしい!
真夏か?
今は!
エドガー!
エドガー!
急に外に
出るのは
むりよ!
おもどり
なさい!
ここは
どこだ?
ここは
どこだ!?
手が
冷たい
冷たい

あ
うそだ
あ
うそだ
あ
あ
ぼくがちがうぼくになってしまったなんて！
手が冷たい！
どけよ
どけよ
小僧!!
あ…？

赤いばら
赤い血
館にも咲いてた
老ハンナは
ばらをつんだ

カサ

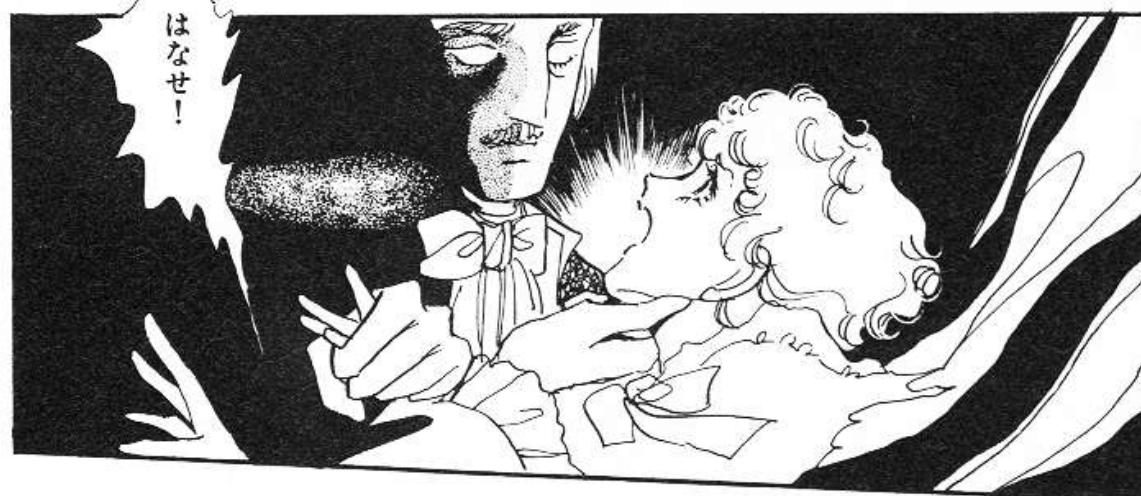
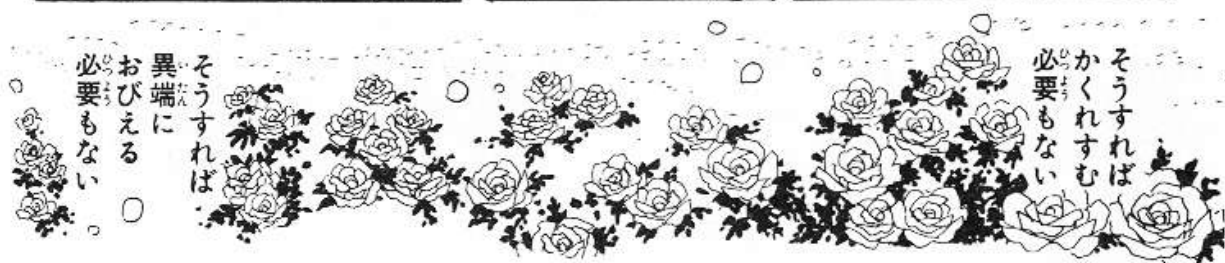
…白い
首すじ
あそこが
生気の
くぼみ
温かい……
味のいい…
ぼくの手は
知っている
――どうすれば
生きられ
るか――

あ…
町……
そうぞうしい
人間たちの
世界
人間たち
――
かつてぼくの

エドガー！
気をつけなさい―― うろうろ歩いていると車輪にまきこまれる
町は初めてだろう めずらしいか？
…！
なんて目で見てる？ これからはわたしたちといっしょだ
おまえはわたしたちの息子だ
変化は完全じゃないわ…
あの子はまだ…
人間であった時の意識に強く支配されているわ
あの子は飢えて死ぬ気なの
目をさまして一滴の血も飲んでないのよ

ああ いつもいつも
一生が幸せな
今日の光のつづきであると
信じていたころ
あとをついてくる
小さな妹を
いつも立ちどまって
待っていたころ
…すべて過去
…すべて過去
…さよなら…
メリーベル…
そうとも
メリーベルは
無事だ
たしかに
約束は
成り立ったの
だからな
それを望んだのは
おまえだったな
ああ
そして
あなたたちは
望みどおりに
したね
おめでとう
おめでとう――もう
用はないだろう
――ある!
おまえは大老の血を
ついだ
最も濃い血だ
それは それだけ確かに
生きのびられる
確率を示す
貴重な一族だ
このまま
だまって

…飢えて
行くのを
見ているわけには
いかない
一度味を
おぼえればいい
おぼえたりなんか
しない！
ここだ
見えるはずだ
変化した
目の中に
首すじに
よどんでいる
生気が
——
手を——
からだ中が
それを
ほっしている
はずだ
手を——
指先
から
くちびるから
それは
流れていく
すうことが
できる
手を……
はなせ！

どうでした
最初の味は
…もうおぼえて？
エドガー
わたしたちは
あなたが好きよ
大切な仲間
仲間…
ぜんぶの人間が
バンパネラに
なってしまえば
いい…！
そうすれば
かくれすむ
必要もない
そうすれば
異端に
おびえる
必要もない
あっ！
ピ
……
…ぜんぶの人間を
引きずりこんでしまえ…！

コウノトリがね
コウノトリが赤ちゃんをはこんできますよええ
ほんと？乳母や！
坊っちゃまお兄さまにおなりになるのですよ
ほんと？それいつ？
もうじきですよ
ほんと？妹？弟？
どちらでしょうね
妹がいいな
あ……！

血がほしい…
ほしい! 生命のかて…!
あの色はどうだ…
ぞくっとする…
きっとぼくはとうにくるってるんだ!
人間であることをやめたときから
くるってる!

あなたは自分を呪わないの
シーラ
なぜ?
…なぜ?
なぜ?
どこのご子息かしらねえ
よくこの道をおとおりになる
……

あ…
シ…っ
ミイリー
き…ゃ
キャーあ

あなた！
したくをしろ！
静かでいい町だったのにさわぎがおこってはいられない！
年のこうだけあって急所を知ってるねあなた
クラクラする…
食事しただけだよなぜ悪い？
食事だと！がっついたものだなこのバカが！
老ハンナが聞いたらなんというか！

あの娘は
小さい時
借金がわりに
奉公に
出されて
出先の主人が
破産したため
やっと
帰ってきて
母親と二人で
暮らして
いたんだ
ガタ
ガタ
ガタ
のぞかんで
いい！
これから
わたしに
だまって
勝手な
行動は
許さんぞ！
……
……
奉公から
帰ってきた
娘……
母親は
悲しんだ
ろうか
母親…
ぼくには
いない
昔の
夢は
ずいぶんと
おぼろだし

メリーベルとの
館の日びが
幸せの
思い出…
もしなにも
知らなければ
なにも
おこって
いなければ
どうしたん
だろう…

人ひとり
殺して
後悔も
ないなんて
まるで
この手と
おなじように
冷たい
あなたたちが
おこってるのは
ぼくが善良な娘を
殺したからじゃ
なくて
それによって
さわぎを
おこした
からだ

感情は
どこに
おいてあるの?
同情してる
わけでは
決して
ないね?
ガタ
ガタ
ガタ

みのった
麦をかって
人間が生命を
つなぐなら
われわれは
人間を
かって
生命を
つないで
いる

ただ
われわれの
麦は
知恵を
持っている
あなどると
こちらが
やられる

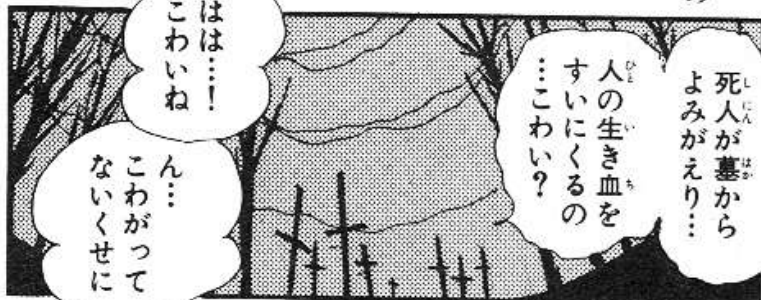
サワサクサク
サワサクサク
カーンカーン
カーンカーン
麦…
そして
この穂の
どこに
メリーベルが
いるのか
いつまでも
いとしい
ぼくの
小さな
妹が
いるのか
ふしぎ
だ……
こんなものに
なってまで
生きている
のか

A BALLET created for margot fonteyn by ...

…eternity and the briefness of life
そちらのほうに関心があるならおいきになってもよろしいのよ
とんでもないマドンナ！あなたの声に聞きほれてますよもうずっと
どうぞつづきを
ザ
ザ
あ…ごめんなさい…
…ひょ

なんだ
ガキじゃ
ないか
美人に
なるぞ!
ハハ
まっ赤に
なって
かわいーい
おもしろく
なりそうだ
おい!
オズワルド!?
おい
――だれだ?
どこかでまえに
あったことが
――たしかに
――どこかで
なんて
かわいい
足
おま
えら!
わ!
おてんば!
あ!
おケガ
は……!
あ〜
エ……

エドガー―!
ぎゃ
エドガー! エドガー! エドガー!
レディー レディー どうぞ
だきしめられるのは いっこう かまいませんが
どうぞ オズワルドと 呼んでくださいませんか
オズワルド!!
じゃ あの エヴァンズ伯爵家のご長男!
どうしましょ
プレイボーイって うわさですがね
メリーベル 髪をくずしてはいけませんよ あくまで上品に しとやかに そうすれば ひょっとして… メリーベルは どこ?
さっき おさそいがあって 馬車でおふたりで…
…このあいだは ごめんなさい
…いいさ そんなにも にてた?
エドガー兄さんと 別れたのは 七年まえなの
七年もまえ? それっきり あわず?

そりゃ あわなくても わかるわ 兄さん ですもの! とっても 青い目を してたのよ!
わたし どこにいても どんな姿だと しても わかるわ もし会えたら すぐに エドガーだって
だって エドガーは エドガー でしかないん ですもの
わたしは たしかに 彼女に どこかで あったし見た おぼえが ある——
彼女は わたしが 兄ににてると いうし ふふ おかしな 縁だな
兄さんは いくつ?
十七の はずよ あなたは?
わたしは二十二だ …もしおなじ年だったら ふたごみたいに にてたかな?
ええ きっとね! まるでおんなじ 目をしてるもの…
育った スコッティの村は 緑の森と 小川があってね
いっぱいの ニンニクの花が 咲いてて…
バンパネラの 伝説が あったのよ
…!
バンパ ネラ?
死人が墓から よみがえり…
人の生き血を すいにくるの …こわい?
はは…! こわいね
ん… こわがって ないくせに

ああ ほんとうに 遠い日――
こんなに はっきりと 思いうかぶ のに――
あの夏も―― あの春も――
あたしいつも エドガーのあとを ついてまわってた
よく水車を 作って くれたわ
ほら メリーベル
なぜ はなれ ばなれになった のかわからない
なにか わけが あったの だと 思うけど…
…会いたい……
…この不幸な男は 小川で水車を まわしたことなぞない……
…きっときて くれなけりゃ いやよ
あたし
待ってるって 何度も何度も 言ったんだから

アチッ
いや
その…!
水車を
作ろうと
して… でも
むずかしい
もんだね
どうしたの
この指の
ケガ
水車
……!
ちゃんと
あるじゃない!
作ってくれた
のね!
失敗しち
まって…
いじわる
オズワルド!
おどかしたの
ね!
どこかの
子どもが
忘れて
いったの
かな
まあ この幸運な誤解を
とくこともあるまい
なんてかわいらしく
笑うのだろう
…この少女は…!

おっどろいたね！ロージャの森でさ
あのオズワルドがこの寒いのに水車をまわしてるんだぜ！
いいのかいマドンナ！第一崇拝者をとられて！
ほっておおきなさいな
相手は十三歳のねんねちゃんじゃないの
だが結婚はできる年だ社交界にも出てるし
なによりもオズワルドのエヴァンズの家系ってのはロリータ・コンプレックスがおおいんだ
さあそんなことよりタロット・カードでもやりましょ
今日はどなたがわたしを笑わせてくださるの？
十三歳のねんねちゃん
水車をまわしてたですって？
まったく人がちょっと目をはなすと…

ジンチョウゲ
ジンチョウゲ
金色ににおうよ
まといつくのよ
まといつくのよ
愛してる
あ！
ジンチョウゲ
ジンチョウゲ
金色ににおう
サク

まとい つくよ
サワ…
メリーベル？
まとい つくよ……
サ
…あ…！
どうした？
――なんでも…
わたし ――わたし 王子さまを見たの ――
金色の王子さまよ

王子さま? だれか いたの?
クス
ええ すきとおった 人よ――
光がぜんぶ しずくのように こぼれて おちてたわ
すきとおった 人よ……
まあ どこに 行っていたの おまえ
館に帰り ますよ いらっ しゃい
――はい
一人で 行っては だめだと いつも――
おや ジンチョ ウゲね
ええ さっき――
まだ つぼみ じゃない
わたし に?
え?
…え お好き なら
まあ ありがとう いつも やさしい子 ね……

メリーベル

メリーベルや?

ちゃんとまえを見ていないとだれもダンスにさそってくれませんよ
は……い

へんなわたし
あのかたのことばかり考えている……

春先の光の精だったかもしれないのに……

どこのだれともわからないのに…

母さま
お願いがあるんですけど

…

え？ なんですユーシス

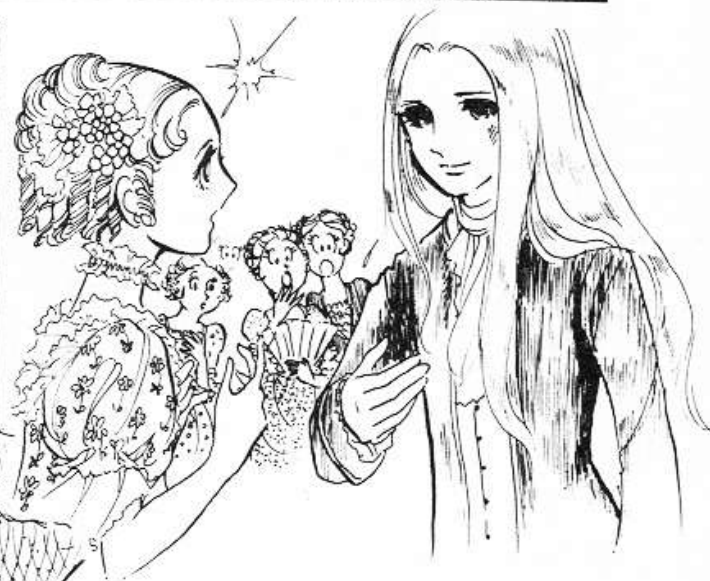
踊ってもかまいませんか？

…一曲だけ

そうね 今夜は若い娘がおおいようね

一曲だけよ
すぐもどってくるのよ

！

！

そうして
そのかたは…
わたしの手を
とって…
すべるように
音楽のなかに
はいりこみ…
それは
みじかい
メヌエット
始まったと
思うともう
おわり…
なんにも
話さず
じまいで…
それでぼくの
友だちの
ステファン・
オクスフォードが
そのあときみと
踊って 足を
ふまれっぱなし
だったって
わけだ
そのきみの
恋の香り
ゆえに
…恋?
エドガーの
ことを
話さなく
なった
ユーシス…
ユーシス!?
おいで!

オズワルド？どこへ――
いいから ついて おいで！
これは あなたの お城？ ずいぶん 大きいのね
まあ おいで こっちだ
たぶん サロン だろう

まあ
ほんとうに
おじょうず
お美しくて…
これは一度絵になさらないと
ええ
いい画家をさがしてますのよ
お美しくて…か！
まったく母うえのサロンのいいなぐさみものだな！
オズワルド
これはみなさんお集まりのところでご紹介しましょう
アート男爵家のメリーベル嬢！もっかわたしの恋人!!
オズワ…
メリーベル!!

ああ
まちがいない
まちがいない
あの女だ
あの女の娘だ
メリーベル！
…あ
恋人――！
お…
メリーベル！
オ　オズワルド
すぐ出て
おゆき!!
お客さまの
まえで　なんと
いう失礼を！
失礼？
失礼！
失礼！
退場しますよ
エヴァンズ家の
不良息子はね
…！

ドタ!
…母さま!

わたしは長くはもたないわ
オズワルドの顔を見ると胸が苦しくなる

母さま そんなことを きっと兄さまに悪気はないのですよ
おまえの半分でもやさしければねえ あれが

ユーシス
おまえだけよ
わたしの味方はユーシス

おまえだけ…

…生きてた
あのきょうだい殺したと思ってたのに……

いつも兄さまが心配かけるから母さまは…

…ほんとうに… 兄さまは子どもみたいだ わたしより ずっと年上なのに…
からだの弱い母さまのことをもうすこし考えてあげてもいいのに…

恋人だって? とてもそうは見えなかった たぶん また兄さまの悪ふざけだろうけど…
…あの少女を兄さまも知ってたなんて…
ひどいわ!
ひどいわ! ひどいわ!
こんないきなりつれてきて…いきなり…会わせて!…あんな!
まるで言わなかったじゃない ユーシスがあ…あなたの…あなたの
そ 弟!
まァま おすわりよ お嬢さん
にてないだろ? 彼は母うえの秘蔵っ子でいい子ちゃんのお人形さんさ!
…そんないいかた…!
あの森かげにあるのが父の館だよ エヴァンズ伯爵
両親は仲が悪くてね べつべつに住んでる
さて 先ほどのユーシスの反応ぶりからさっするにユーシスはまるで きみに無関心でもないと見た!
パン
ガチャーン!

イルリー乳母?
…これは! 年をとると… 手もふるえ まして… すぐ かわりを
…!
…ちょっと 待っててくれ …すぐもどる
ガチャ!
うばや まって! おいてかないで
まって! うばや うばや
おお… おお… メリーウェザー さま…!
メリーウェザー …だと?
メリーウェザーだと!? メリーウェザー
…そうだ! メリーベルを どこかで 見たと 思ってたが メリーウェザーに 似ているのだ! もうずっと 昔に死んだ
父が若いころ 愛していた娘!
…子ども …が!?

こども…!?
ちがいます!!

ちがいます! ちがいます! そんなはずはございません
たしかにたしかにメリーウェザーさまにはお子さまがいらっしゃいましたが

乳母め…！
まっ青になって
昔 なにか
やらかしたな
オズワルド？
馬にのって
どこへ
かた
あ！
きゃ…っ

待って!
動かないで…
からみついてます
すぐといて
あげますから
最初の
出会いと
おなじだ
しかも
その時のことを
…たった今
思いかえしていたら
香り
が…
あなたの
髪が
からんでる
木の花の香りです
いたずらな小枝よ
もっと髪を
からめておくれ
なんの木?
ジンチョウゲ
陽だまり
なので
どこよりも
早くつぼみを
つけるのですよ
この時が
すこしでも
つづくように
つづくように
サラ
サラ
サラ

エヴァンズ伯!!
もしくは父うえ!
バタン

これ…だ…!
メリーベル…!
オズワルドか?
いつもそうぞうしいやつだな
かけこんできてなんの用だ
この絵がどうかしたのか?
父上は昔…

わたしが…子どものころ
この絵のまえであなたの恋の話をしてくださったことがあった
春らんまんの花の中
香るさんざし白い窓
ああ　あったろうさメリーウェザーは美しくわたしは若く
もう一度聞かせてもいいぞ
メリーウェザーの子どもたちが生きてます…
緑のコテージで娘が待っていた
エドガーとメリーベル二人とも生きてます
メリーベルのほうはアート家の…
わたしの…子どもたちが!?
そうだ二人ともだ…!
あの水車を作りにきたのはだれだ!?
四五人の恋人は貴族の常道かえっていないとバカにされ
もとより親どうしの決めた結婚わたしもずいぶん遊んだが…
メリーウェザーかのおちぶれた男爵家のすえ娘
彼女だけには心をつくしひたすら愛ししげく通い

もうすこし くわしく話せ
オズワルド! なぜそれが わかった
水車が…いや
毎日…会って たんです彼女と
一目見れば わかります 母親そっくり なこと…
…兄のほうは ゆくえが しれないが …
父上
母親 そっくり か…
はやり 病で 死んだと 乳母に 聞いて いたが…
そうか そうか 生きて たか ……
わたしの 子ども たちが ……
はかなきは 恋の日 はかなきは 恋の夢
はかなきは あこがれ 待つ日び さぐりいる 昔……
金色に におう
兄さんが 迎えに くるのを 待ってるの
あなたと おなじ 青い目を してるわ オズワルド
ジンチョウゲ ジンチョウゲ

からみつくよ
からみつく
……

愛してる…

いとしい
いとしいと思い

心ひかれたのは
わたしの…

妹だった
からか…

メリーベル・アート
夜会にもきてました
兄さまがいたずらっけをだして恋人だって…
おだまり!!ユーシス!!
アート家の養女ですよ！どこのウマの骨とも知れない
おまけにオズワルドと気があってるなんてゲスな女に決まってます！
母さま！
そんなことはありません！…とてもやさしいすなおな子です
どうぞ一度会ってください
その話はやめてと言ってるのよ！
ユーシス
おまえにはロンドン中さがしたっていちばん美しい娘を母さまがえらんで花嫁にしてあげます！
おまえはいつもいい子だったわかわいいユーシス
わたしにさからったことなどなかった
言うことを聞いて！お願いだから
母さま
ユーシス！母さまにはおまえしかいないのよ
言うことを聞いて！

よーっ！ごぶさたオズワルド！
その後どう？ずっと例の小娘のおもりかい？
春は芽ぶき始めたオレはせめやせんぞべつに
血すじは争えん！おまえのおやじもガキ好みで昔…
だまれアヒル
ドカ
……
ばしゃー！
ぶ…ぶ無礼な
決闘だ！
決闘!!
決闘をもうしこむ明日の朝六時!!ロージャの森だ！
朝はねむい
夕がたにしろステファン
バカいえ！ちゃんとおきてこい!!
オズワルド
ステファン

オズワルド…!! ステファン・オクスフォードと決闘だと!?
オズワルド! おまえはいつもバカなことを

おや
…ご両人

つまりこれは愛のムチですか
ほったらかしにしてた息子でも死ぬかもしれぬとなると心配ですかね
オズワルド

まあ わたしが死ねばユーシスが爵位をついで…
母上はばんばんざいですね

ユーシスにはあとをつがせん! 息子が生きてるかもしれんのに
なんですって!? ユーシスは息子じゃないっていうんですか

そうだ!
ま…ま… そしてあなたはゲスな女に生ませた子を息子だ などと本気で…!!

社交界のいい恥ですわ!! 許せませんわ そうなったらわたくしだって
キィーッ

つづきは外でどうぞ

……手紙一つゆっくりかけん
…見ろ名もんくを忘れてしまったぞ!!
この寒さではまた雪かな
なんとロマンチックであることよ
死ぬかもしれん…
なにが悲しいっていうんだ? オズワルド おいおまえ
なにが悲しい?
それがわかればね…
ああ そうさ だれもオレのために泣いてくれないだろうから オレが今追悼してやってるんじゃないか
アート男爵家令嬢メリーベルへ…

ふ…っ
寒い…
雪だ
忘れ雪だな
オズワルド兄さま…
こんな早朝にどこへ
マドンナ
もうこんな女がいることなどお忘れになった?
カゼをひくぞ
見おさめになるかもしれない顔を見にまいりましたのよ
…オズワルド…

カカッ
カカッ
……
…エドガー…
エドガー!!

ようし
定刻遅れずに
よくきた
ちゃんと
おきられた
ようだな
オズワルド

えらい
人数じゃ
ないか
坊主も
呼んだ
ろうな　え
ステファン?

用意は?
ここに
銃が――

単発だ
一度ずつ
引き金を
引く

距離は?
十ヤード
早くしろ
この雪ひどく
なりそうだ

先にステファンが引き金を引く
次にオズワルドだ
双方ともそれたら火薬をつめてもう一度
それまいよなあステファン

不発か
こんな場合はどうなるんだもう一度引くか?
それともわたしが撃つ番か?
——どうぞきみの番だ

メリーベル——
いつもそばにいたんだ——
メリーベルさま
手紙が…？
ユーシス…かしら？
きみが気づかなかっただけで
親愛なるメリーベル
水車のことでひとこと、きみは
感謝していたが、実はわたしが
つくったのではないのだ
ことによると きみの兄上かもしれぬ。
ぞんがい 兄上は近くにいるのかも
しれぬ。
オズワルド
エドガー？エドガーですって？
オズワルドはエドガーを見たの…？

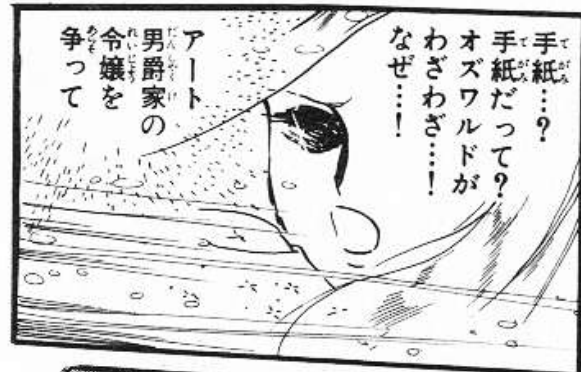
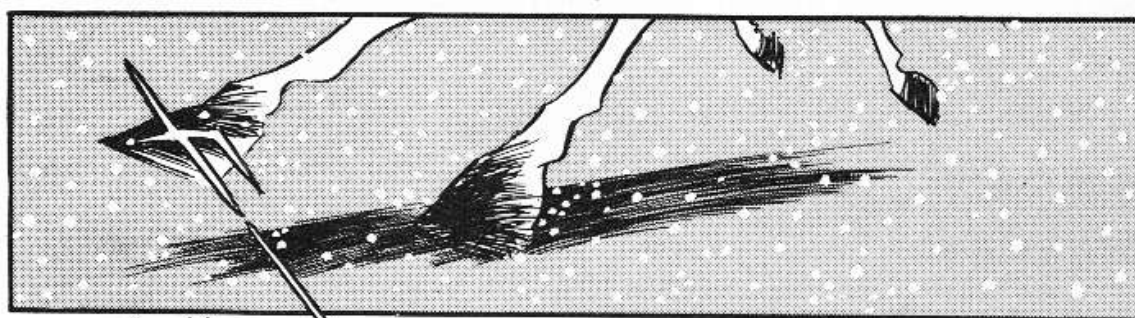
いつも
そばに
いたんだ――
ぼくは
もうすでに
たそがれの中
霧の中
色もなく
香りもなく
手折ることも
かなわぬ
まぼろしの
銀のばらに
すぎない
けど――
それでも
いつもいつも
メリーベル
妹よ――
きみだけを
見守ってきた
しげりの蔭
風の間から
きみの声聞き
きみの笑みを見
だれよりも
幸せにおなり
陽だまり
花の香
笑い
夢こそ
きみにはなにより
ふさわしい
……
どうなさっ
たんです
お早いこと
母さま
お…
…お
ユーシス
オズワルド
が……
きみは幸せにおなり
だれにうしろ指をさされる
ことも 恐れられる
こともなく
なんでもね
アート
男爵家の
令嬢を
争って
フン
フン
フン

決闘…!!
……なんてことを!

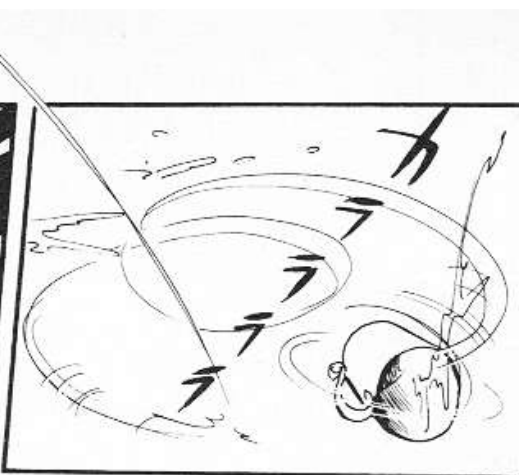
ユーシス!

今 今オズワルドから手紙をもらったの!
彼はいる?
メリーベル
ユーシス? どこへいくの?

手紙…? 手紙だって? オズワルドがわざわざ…! なぜ…!
アート男爵家の令嬢を争って

なんなの なにかあったの?
数行の手紙をなぜ今朝オズワルドは…

ギ
ザッ
ザッ
ギ
争って!
アッハハ
あのカフェの話を
聞いたかい
寒くて
かなわん
もっと
センを
ぬけよ!

もちろん
すごくいい
女だった！
それで
オレは
いかに
して
おい！
あれは
なにを
かくそう
わが弟じゃ
ないか！
死体を確かめに
きたのか？ ハハ
生きてるよ！
まったくね！
双方とも
四度
引き金を
引いたが
不発だった！
残念だな
爵位をとり
そこなって
え？
ま
飲めよ
あったまる
健在なる兄と
その悪友を
祝ってくれ！

カラララララ
あなたって人は……！
ヒューッ!!
いせいのいい弟だ！
聞くと見るとじゃ大ちがいだな！
これがお人形さんか!?
あなたはヒレツだ！
あなたのような人に………
だまってろー！
オレのような
メリーベルはわたさない！
オズワルド……！
おい！まさかあんな子どもを本気で…

よくいったな！
それほどまで
メリーベルを
愛してるのなら…
なにを知ろうと
なにがおころうと
あの子を
うらぎらないと
誓えるな！
偽善者ぶって
身をひくとでも
おっしゃる
気ですか！
妹で
なかったら
だれがおまえに
わたすか
な
…なんで
すって!?
……！
メリーベルは
メリーウェザーの
娘だ！
父の愛人だった女の
……
母さま
…の…
金髪の…
……
わたしは
そして…
知っていたか？
おまえの父は
ネーデルランドの
若い宮廷楽師
だった
やはり
みごとな
金髪のな
母うえの
猛反対は
さけられんぞ
へたすりゃ
絶縁だ
それでも
愛してるな？
愛してるな！
さあ誓え
あの子を
幸福に
すると…！
…なにも知らずに
ずっと母さまを
ひとりじめにして……

……
オズワルド…
誓います 愛しています わたしに 語れる たったひとつの こととして
どうぞ 許してください なにも知らなかった
どうぞ……

……
どうしたの…
なんなの?
あたしには
なにもいって
くれないのね
ただ
単に
幸運な誤解を
ときたくなった
だけですよ
あの手紙は
エドガーを
見たわけ
ではないのね
?
いや…
おいでよ
メリーベル

歩こう
春だよ
…エドガー
か…
なぜ姿を
見せないの
だろう
なにか
わけでも
あるのだろうか
あこがれよ
夢よ
しばしば
思い出に
生きる
ものよ
うちすてよ　銀のばらを
手折ることのかなわぬ
うつし世の愛を
ユーシス…！
とられてしまう
わたしの
ユーシスが
あなた　恋人は
やさしく暖かく
息をくちびるに
吹きかける
その確かな今の
時とともに
わたしの
愛する
息子が
おお！

ロンドンを
たつって?
…ええ
おまえたちを捨てた両親のことがわかったそうだな?
それと兄弟とね
捨てたかどうかはともかく
…もう…いいんだ
もう
いい…
ユーシスがいる
…ぼくのかわりにメリーベルを一生守ってくれる…きっと!
では…出発するか
三年近くひとつところにいたのは初めてだ
……
両親にあってこなくていいのか?
へえ…? 思いのほかあなたはセンチメンタルなんだね男爵!
バンパネラの息子が人間の父親にあいにいく?
こっけいだよ! 早くこの町を出よう!
ゆりかご…
早く!
…香るさんざし白い窓
……

どこか遠くの
いつかの日びの
人間であれば
かなえられたで
あろう夢
…さよ…なら
…しあわせに…

お許しをいただいたおカネだけのことはいたしました!
いいやおまえは情が移ってとどめをささなかったのだよ!
さんざしだらけのいなかの家で子どもの子守りをしてるうちに!
伯爵夫人!
ほんとうに!?
いいえ森でええ森で…殺して…殺して
その血ですその血ですエドガーさまとメリーベルさまの…!
ええ!
ユーシス…!!
ど…う
…どうしろと言うの!みんなおまえを愛してるからやったのよ!
おまえをりっぱなあとつぎにしようと
オズワルドだって殺してかまわないおまえだけがささえなのよ!

お産のあと
ぐあいが悪くて
病弱だった
メリーウェザーの死後に
残った子どもたちを
正式に引きとると
いい出したのよ
伯爵は！
ユーシス
おまえ
だけを
おまえ
おまえ
おまえ
やめて
夫を盗んだ女の娘が
今度は息子を
かどわかして……！
許さない！
一歩でも
はなれないで
はなさない！
おお　おお
ユーシス！
やめて！
かあさま！
わかってます
わかってます
あなたが
悪いんじゃない
どこへも
行きません
行きません
かわいそうな人
…かわいそうな…
……
メリーベル…

おまえの父は
ネーデルランドの
若い宮廷楽師
おまえに
にた
金髪の
だれが
悲しみを
せおう？
わたしか？
母さまか？
メリーベルか？
…生まれて
きては
いけなかった
のかも
しれない
…馬車を
とめて…
いざ出発と
なると
みれんが
残るか？
そうじゃない
血のにおいが
あら…ほんと
風にふくんで
ロンドンは
ぶっそうな
町だからな
まったくいつも
事件ばかり
おこってる
ピチャ

そのナイフをよこすんだ!
ズむっ
はなせ!
う…っ
バカ!メリーベルになんという気だ!
メリーベルを愛してる母さまもどちらも
…うらぎれな…いか…ら

…エドガー
エドガー!

ザザザー
ザザザー…!!

初めて
人を
殺した
時
ああ
あれは
黒い髪の
母親と
ふたり暮らしの
少女だった
その時で
すら ただ
自分のみを
あわれんで
泣いたのに
ユーシス
ユーシス
ユーシス!

まあ お聞きになった? 恐ろしいこと!
エヴァンズ邸に悪魔がはいってユーシスさまを骨まで食っちまったんですって!
司祭さまがいらして聖水と十字架を窓や戸口においてらっしゃるのよ
大さわぎよ 伯爵夫人は三度も気絶なさるし
……エドガーだった!

う…そ
うそ!
エドガーが
ユーシスを殺すはず
ないわ!

わたしの目は
彼とおなじでは
なかった?

わたしが
きみの言う
エドガーでしか
ない少年を
見まちがっ
たりするか?

そして
彼は
青年には
見えなかった
彼はきみと
四つちがいで
ずっと大きい
はずなのに
ね
なにが
彼の成長をとめ
たんだろう?

なぜ彼は
われわれの
まえに
はっきりした
姿を
見せないの
だろう
きみが
待っている
というのに
それは
エドガーじゃ
ないわ!

エドガーじゃ
ないわ!

そうだ
あれはエドガーで
あるはずがない!

きみの育った村には伝説があると言ったね！バンパネラの
彼は小さかったきみのエドガーは十三か十四の年に死んだのだよ
死んだ……
あれは墓場からぬけ出したくるった悪霊だ！
エドガーじゃない！エドガーがそんなこと！
とてもやさしかったのよ！あなたは知らないんだわ！
うそ！ちがうわ
ユーシスは殺された
あなたは水車を作ってもらったことなんかないくせに！
水車を作ってもらったことなんかないくせに！
カーンカーン
カーーン

まあ！エヴァンズ伯爵夫人！
光栄ですわ わざわざいらしてくださるなんて！
……まあ ほんとにこのたびは
じつは おりいって お願いが
おたくの お嬢さま…
養女に！
ま！ これは ゆくゆくは オズワルドさまの 花嫁となさる気だわ
男爵家から 伯爵家になんて 願ってもない
おなじように 愛するものを 失って さびしくて…
これはユーシスの 愛した娘 ユーシスを 愛した娘 わたしの気持ちも わかるでしょう

ほろほろ
よせよ イルリー 乳母
はい はい
あら! ま エヴァンズ伯爵
これは エヴァンズ 伯爵夫人
…あ… ごきげんよう メリーベル いい風だ
ええ 伯爵
ふしぎな和が もどってきた

ユーシスのお父さま
ユーシスのお母さま
ユーシスの兄さま
ユーシスのいた家
歩いた庭
ユーシスは?
きっとそこらの葉かげにいるわ
…ユーシス…
ふりむいたら笑って逃げるんだわ
わたしは信じちゃいないもの
ユーシスが殺されたことなんて
ただいないのがさびしいだけ
だから呼ぶから出てきてちょうだい
ユーシス!

ほんとに
かわいい子ね
ああ
たいくつ
しないよ
話相手に
なって?
いいや
さほど…!
むこうがわたしを
話相手にしてる
それであの子は
あなたの
なんですの?
…あれは
メリーウェザーの
娘だ
花をつんで
あんで
輪にして
でも
ジンチョウゲは
きらい

ガターン
伯爵・・・!
あ・・・
おどろいた
絵がはずれて
おちたのね
・・・・・・!
ジンチョウゲは
きらい
香りが
きついし
髪に
からむ
ドクン

…そうだ
他人じゃない
妹なんだ
知ってた
だろう
ユーシスと
わたしが
父親のちがう
兄弟だって
こと
メリーベルの
母親は
若くして
なくなった
父が
このうえなく
いとおしんだ
メリーベル
そっくりの
人だっ…
エドガー!!
エドガー!
エドガー!
捨てっ子の
お母ちゃまが
わかった
おばあちゃまやら
レダやら
困らせっぱなしで
泣くたびに
お兄ちゃま
水車を作って
くれて
そばにきて
そばにきて
エドガー
水車が
ほしいのよ!
いや!
どこに
いるの!
どこにいるの!

キャああ
ああ

メリー
ベル!
さ…
出なさい!
ユーシスが
殺された
部屋だ
母上が
そのままにして
手をつけさせ
ないんだ
これはなに…!
この部屋は
なんなの!
…ごめんなさい
オズワルド
に…い…さ…ま

ユーシスは殺されたのだ
──確かに
…お… エドガーに…
エドガーに──
シッ 今夜は早く おやすみ
オズワルド うん?
もう平気よ ナイフをちょうだい
オズワルド 愛してるわ!
伯爵も 伯爵夫人も この家も わたしみんな愛してるわ!
ユーシスも!
だから ナイフをちょうだい!
わたしこの家の娘になるの!

銀の
細いやつを
あげる
まくらの
下に
入れて
おねむり
弱そうに
見えて
わたしなんかの
百倍も我の
強い子だわ
あの子の
お母さまも
そんな人
だったの？
さあ
知らん
狂信する
タイプよ
ほんとうに
この家の娘に
なれるかしら？
あの子が
銀のナイフで
たち切りたがって
いるのは　なんなの？
送って
いくよ
あら
マフが
ないわ
誓います
わたし自身に
わたしは
エヴァンズ家の娘
わたし
ユーシスを
殺したものを
憎むわ
もう
エドガーは
決して
わたしのために
水車を作っては
くれないのだ

エドガー
もうおまえは
いらない…
そうとも
あの子は
成長する
ぼくをこえて
…こえて
帰らない
思い出を
忘れ
ぼくを忘れ
ユーシスを
失った
悲しみをいやし
そしてやがて
新しい幸福を
あしたに
見つけ出す
幸福を願っていたのではなかったか?
………忘れられる
………それがなぜこんなにつらい…?
それだけ
メリーベルが
ぼくを忘れないで
いてくれる
たったそれだけのことが
こんなにも
失いたくない思いの
すべてだったなんて

母上
マフを貸してください
マドンナのは庭でなくしてしまったっていうんですよ
お待ち
ガウンを着るから
ユーシスの部屋はかたづけてしまったらどうです?
ガチャッ
まくらの下に…?
パ
母さま
許してください
すべての人を
メリーベルも
メリーベルの母上も
伯爵も
わたしも

わたしは公平に
この身を土へ帰します
これは
ユーシスの…!?
母上はこれをどこで…
…おそらくは
ユーシスの部屋で…
あなたは…
ちがう!
ちがう
ちがああ
ああう!
こんなに愛してたのに
あの子 あの子が
自殺なんて
うそよ!
あれは
事故だった?
ユーシスは
死ぬ気で…
母上その
愛のあまりに
ユーシスを
追いつめ
母さま
許してください
追いつめ
たのは
それとも
わたししか
許してください
すべての人びとを
…おまえ…
バカな!
メリーベルを
おいて……

ハンプティ
ダンプティ
死んでしまった
白ねずみ
くだけた
ガラス
食べちゃった
お菓子
すべて
もとには
もどらない
だれよりも
メリーベルの
幸福を
願って
いたのに
…願って
いたのに…

目がさめていたの?

ちがう
エドガーじゃない…!
…ええ

ああ ただ
さよならを言いに
ぼくは
仲間たちと
今夜
発つんだ
これっきり
会わない…

これは——
これは
……
エドガーでは
ないのだ
さよなら

これは
ユーシスを
殺した
悪霊だ!!

ユーシスを
殺した……!
どうしたの?
早くおやり

あ
あ
あ
わたし待ってたのよ！ずっと待ってたのよ！
エドガー！
エドガー！
エドガー！
それは殺したものだぞ！ユーシスを

死霊の青い目…！
わたしとおなじ青い
おなじきょうだいの…

もどれ！
もどって
こい！
もどってこい
どこへ
行くんだ！
エドガー！
メリーベル
ユーシス
行くな
もどって
きてくれ
サク
みんなわたしを
おいていった！

バカね…ほんとに子どもみたい
みんなわたしをおいていった……!
世にもまれなる美女がそばにいてあなたを熱愛してるのよ

おいていきませんとも……！
わたしたちは結婚するのよ
そして子どもを産んで育てて
まろやかな家庭を作るのよ
なにもかもとりもどせますとも……

「メリーベルと銀のばら」 1973年12月